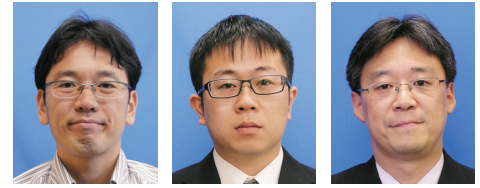


社会資本整備のストック効果の表現手法に関する研究



社会資本マネジメント研究センター
社会資本マネジメント研究室

主任研究官 山口 悟司 (研究官 (博士(国際協力学))) 鈴木 貴大 室長 中尾 吉宏

(キーワード) 社会資本整備、ストック効果、メッシュデータ

1. はじめに

近年、わが国の厳しい財政制約の下においても経済成長や安全・安心の確保、国民生活の質の向上を持続的に実現していくため、ストック効果（社会資本の中長期的な整備効果）を客観的、定量的に把握し、積極的に高めることが求められている¹⁾。本稿では、岩手県盛岡市の事例を参考に、地図上のメッシュ統計データを用いたストック効果の表現を示すとともに、整備効果が地理的・空間的に広がっていく様子を過不足なく捉えるための方法を考察する。

2. ストック効果の表現事例

2001、2012年事業所・企業統計調査（総務省統計局）のメッシュ統計データをもとに、盛岡市付近の事業所数の増加率を示した結果を図-1(a)から(c)に示す。メッシュを大きくしていくほど、大域的な特徴が把握しやすくなる一方で、大きく（正あるいは負の）効果が出ているスポットとそうでないスポットとで変化量が相殺されてしまう傾向があることから、適切な大きさのメッシュを利用する必要があるといえる。

また、図-1中の白枠は、2001年時点で事業所数が0

であったが、その後事業所が生じたメッシュである。その分布をみると、整備効果が郊外にも広がりをもつことがわかる。

3. メッシュ表現図から整備効果を読み取る方法についての考察

盛岡市では、ダム開発（1968年四十四ダム完成、1981年御所ダム完成）、東北自動車道の開通（1977）等の社会資本整備と盛岡南新都市整備事業等が複合的になされてきた経緯がある。図-1は、これらが総体として中長期的に地域に及ぼした効果に着目したものであるが、今後の研究では、各計画前後でのメッシュ表現図作成・計画主体へのヒアリングを通じて、個々の計画がいかんして相互に影響しつつストック効果に帰着していったのかを明らかにすることを目指す。複数事例についてこうした詳細な検討を行うことで、ストック効果を「見える化」し、効果的に高めていくための客観的な方法論構築を図る。

参考文献

1) 社会資本整備審議会・交通政策審議会交通体系分科会計画部会専門小委員会「ストック効果の最大化に向けて～その具体的戦略の提言～」

http://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/sogo08_sg_00022_0.html

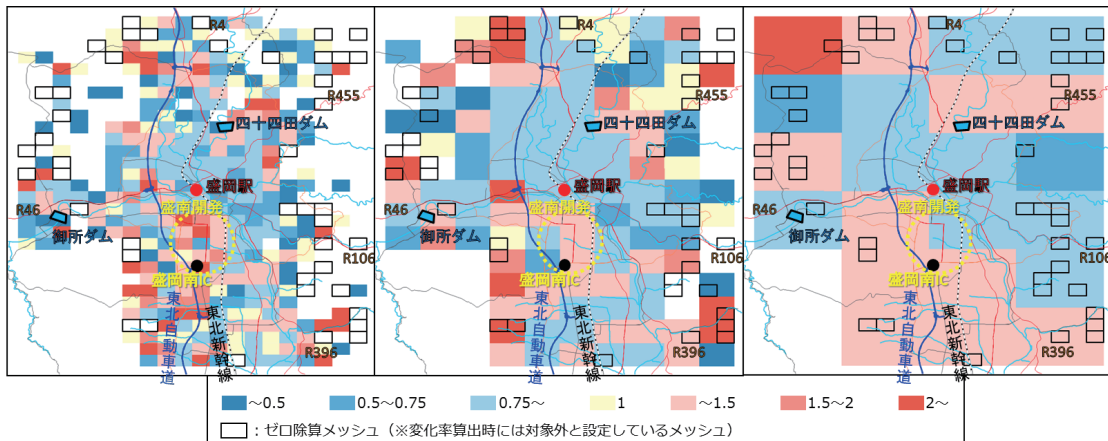


図-1 盛岡市での事業所数変化率(2001~2012)
左から順に、(a)1km×1kmメッシュ、(b)2km×2kmメッシュ、(c)5km×5kmメッシュ